

Shiripaの星

北星学園余市高等学校同窓会誌



私にとつての北星余市

一五期 松村 悦子 (旧姓 平野)

受験生の頃…

どうして母が「北星余市の良さ」を知ることになったのはわからないが、一歳上の姉が受験の頃「北星余市の良さ」を一生懸命話していたように思う。結果、姉は北星余市の生徒になった。学生生活は思った以上に波乱に富んでいたようだが、個性豊かな先生方との出会いで姉は毎日に「自分らしさ」を主張する方法を身につけていったようだった。学校の話は当然私の耳にも入り、私も北星余市に入学することを決意した(当時片想いしていた同級生のお兄さんが北星余市に通っていたことも北星に決めた理由の一つでもあった。「もしかしたらカレも北星に…」と密かに期待していたのだが、彼は後半猛勉強をして札幌の高校に進学していった)。

北星余市校生の頃…

入学後、先生だけでなく何とも個性豊かなたくさんの同級生と出会うことになった。小樽や札幌からわざわざ(?)通ってくる面々。学校では



殆ど一日眠っているようなヤツもいた。中学から仲良しだった彼女とは、二人で野球部顧問の垣さん(北垣俊一先生)に「マネージャーにして下さい!」と頼み込んでマネージャーにしてもらった。弱小野球部ではあつ

たが、夏の大会・岩内高校との対決で、真面目なレフトのK先輩が見せたファインプレーは「超美技は神の微笑み」と翌日の道新に掲載された。マネージャーの二人にとつても最高の夏の一日になった。

一人っ子だった彼女は、今三人の男の子の母になっている。

高校に入ってから仲良くなった彼女とは三年間同じD組だった。天然パーマの彼女はちよつとほけていて料理上手な当時「お嫁さんになりたいNo.1」だったと思う(私の父も彼女のファンだった。高校生活の後半、私の家で毎日食べたホットケーキの味は忘れられない)。

彼女は美容室を経営(シリパの星4号参照)し、私は彼女の顧客である。

ケンカもしたし、感動の涙も流したが、男子も女子も垣根なく、同じ時間を過ごした大切な友がたくさんいる。

同級生もさることながら、先輩や後輩も強烈な光を放っていた。三年生の教室前を通る時はまっすぐ前を見て誰とも目を合わせないようにして急ぎ足で通り過ぎた。一年生の時は憧れの先輩の彼女から何故か冷たい視線を送られたこともあった(何もしていませんけど…)。

三年生になると札幌からの新入生が急激に増えた。「どうみても暴☆族の彼の坊主頭には、ソリの込みがあった(勿論、皆「まんじ」と呼んだ)。春の余別の研修会でソリこみの細まゆげに凄まれた時は本当に泣きそうになったが、怖かった数々の先輩を思い出し「こんな程度じゃね…」と毅然とした態度で必死で先輩面をしたこともあった。

あの頃の北星余市は本当に怖かった。流行とはいえ、パンチパーマやリーゼントでガタイもいいとなればチョットしたヤ☆ザである。女子はセーラー服の襟を首までピンで詰め、おへそが出そうなくらい短い丈にしてくるぶしまでのスカートをはいていた。「チョンパン」をベタン

コにして持ち、鞆の持ち手に巻くビニールテープの色で何かを「主張」したりしていた。学ランやセーラーのポケットにナイフやカミソリを潜ませているような人(本当はただの人なのだけれど…)が大勢いた時代だった。

毎日誰かが謹慎に入り、大なり小なり事件はアチコチで起きていたが、私にとつて学校生活はやはり「青春」そのものだった。勿論、今でいう「恋愛」もあるにはあった。

そして高校入学前の春に初めて会った姉の友人は、今私の夫になって(くれて?)いる。三年間山先生の教えをたっぷり受けた彼もまた、正に「北星余市の人」である。

そして今…

私は高校卒業後北星大学に進み、法律事務所に勤めて二五年、結婚後も、二人の娘を出産後も、ずっとフルタイムで働いている。

社会の中で生活する上で、常に「自分らしさ」を失わないよう、周りと調和しながらきちんと「自分を主張」することを心がけているが、これはおそらく北星余市で過ごした日々で養われた「生きることに対する『想い』」なのだと思う。

不良学校から不良再生学校にイメージが変わり、ブームがきて生徒が増えやがてそれも去り生徒が減少、更に少子化に拍車がかかり学校がなくなるかもしれない…そんな日々が続いている。想いは人それぞれだが、個々の想いがあるからそれでいい。嫌な思い出も輝くような青春の日々も、『ここに北星余市があるから』こそ味わえるものなのだ。

十年間の編集作業の中で様々な卒業生に出会ったが、「同じものを見つめ共有できることの心地良さ」を毎年実感している。これが『編集長の特権』なのだと、心新たに感じる十年目である。いつまでもシリパの星が発行されることを祈って…

今も、母校（職員として働いています）とかかわっている幸せにひたっています。



5期 本間美智子

最初は、いやいや通学していた。しかし、一年の学園祭（壁新聞担当）の関りのなかで北星余市は、なかなか楽しいじゃん！と変わっている自分がいた（今と違って、学園祭は壁新聞・仮装行列・合唱がありました）。

北星余市を卒業して約半年がたちます。私にとって北星余市とは、人生のターニングポイントだったのではないかと思います。自分がすごく変わった場所です。北星での経験が今の自分に繋がっている事をとっても感じています。

43期 笠田まりあ



私にとって北星余市は、出会いの場所。色んな人に出会えた。その中で良くも悪くも新しい自分と出会えたと思う。一番良い思い出は、色々な人から言葉を貰ってきた事。彼ら彼女らは私にとってかけがえのない宝物。逆に嫌というくらい多かったのは、寂しかった事。家に子どもが、寂しかった。卒業して友達と離れるのが一番嫌だった。北星での出会いがあって今の私がある。この出会いに感謝したい。

43期 空保まゆみ



北星余市とは
帰ることの
できる場所

一番良い思い出
卒業して7、8年経つけど、離れていても、いつまでもつながりのある、刺激のしあえる仲間ができたこと。

一番いやな思い出
悪いことは忘れてしまった。小野澤というわけのわからない教師と出会ったこと（笑）。大きく人生を変えてくれたのは、小野澤先生と義家先生。今本気で教師を目指してる。人生何回でもやり直しがきく。



41期 後宮 嗣

良い思い出は、卒業式ですね。あれだけ大勢の方に見守られての卒業は今でも夢で見ます。嫌な思い出は生徒会の会議です（笑）。今でもあの部屋見るとノイります（泣）。

※写真はネバールのボランティア先で会った村人と



36期 柴田 能至

下宿編

旧校舎時代の12期生頃までは北星寮と下宿は2つ程度でしたが、1988年に転編入制度が導入される直前には寮・下宿生が140名を超えるまでになりました。全国から生徒が来るようになってからは下宿生が400名を超え、下宿の数も22軒に増えていきました。下宿のピークは2001年の44軒でしたが、今年2010年は29軒（男子17・女子12）となり、管理さんが暖かく生徒を見守ってくださっています。



愛星寮（男子寮） 清水ウメ子・幸雄さん

1番嬉しかった事 この様な仕事をしておりますと、出生地、親、年、性格、色々な環境が違う中で、それぞれが悪戦苦闘して大きな目標（卒業）に到達した時のよろこびはこの上ない感動に身体がふるえる思いになります。目を見ても生まれたばかりのすっきりした目ですね。この子どもたちの、みんな頑張ったナア、おじちゃん、おばちゃん最高に嬉しいよ、ありがとう！！

1番悲しかった事 愛星寮の生徒と関わり、生活している中で、親の気持、管理人の気持が子供に伝達出来ずいらしている中で学校から「何か問題を起こしました」との連絡、その時ほど、悲しくなることはありません。普段から言っているのに、何故この子は理解してくれないのか！その時が1番悲しくなりますね。

1番腹が立つ事 子供達と向き合って指導、管理をしている中で、何回も何回も教師の注意を無視し、私共の注意も軽く受け流し、最後には学校を離れなければならない、その時の感情は言葉に表わす事が出来ない位残念な気持ち、くやしい気持ち。最後には、この現実なんなのか！！1番腹が立ちますよ。



北陽館（女子寮） 木下扶裕子・静一さん

忘れられないうれしい思い出

私が体調を悪くしていた時の事、その時の三年生が早起きして寮生全員のお弁当を作ってくれた。しかも私の分まで。感謝しつつ涙にむせた思い出。

悲しい事

病んでいる子どもがいるとそれだけで心苦しくなります。時が解決するしかないのは辛く苦しいものです。

腹立しい思い出

すべては水に流して生活している。頭にあまり残っていません。



6期 空保 泰司（果樹園経営）

6期生の思い出といえばやっぱり「ボイコット事件」です。喫煙発覚で多数の生徒が処分を受け、それを機会に「仲間とは何か」という問題が回りの生徒にも問われ、生徒が立ち上がった取り組みでした。私は処分を受ける側にいましたが、仲間を見捨てないという気持ちが伝わってきて、すごくうれしかったですね。



北星余市とは スタート地点

37期 田口 耕

一番良い思い出

今になって考えると、3年の学園祭で最高の賞を取ったことなどはどうでもいいことで、単純に北星余市にいられたこと、あの環境とあの学校が良かったのです。友だちも出来たし、今でもやっぱりなんとなく自分の基盤になっていると思います。

一番いやな思い出

彼女とケンカして、コンクリートとやり合っただけ。骨折。学旅行もギブスで参加。沖縄の海にはたっただけ。



北星でたのしかった思い出

下宿に入って、先輩や後輩ができて、いろいろな経験ができたことです。

41期 H

寝ぐせのまま、グラウンドを横切って学校へ。

子犬のようにじゃれあう友達の中と、その奥にそびえるシリバ岬。

吸い込んだ初夏の風が、どれほどまでに清々しかったか。

鼻歌の向こうで、かすかに聞こえるチャイムの音。遅刻だー！

いつか、あんな映画を撮ってみたい。

30期 金井 良祐

謹慎の館編

謹慎の館 とは...

地方から来ている生徒が謹慎処分を受けた時、謹慎期間中預かってもらう場所です。

一昔前（二昔前？）は当然「自宅謹慎」でしたが、遠くから子どもを出している親にとって、謹慎処分を受けた際にかかる費用（交通費等）は大変な額です（生徒の皆さん、心して聞いてね）。

そこで謹慎中の様子を直接担任が見れること、そして親の負担等も考慮した結果、北星余市の考えに賛同して下さる方々がそれらの生徒を謹慎期間中預かってくれることになりました。15年前のことでした。厳しくも優しい山口さんや関根さんのもとで、何かを感じ、心新たに学校に戻って行った生徒も数多くいたはず。



赤井川村：民宿あったべや
山口芳之・君枝さん
館歴：最初から

子ども達を預かって嬉しかった事

卒業後に顔を出しに来てくれて、近況を報告してくれることが嬉しい。

最近大変だと思うこと

大変なことは沢山あるけど最近は無反応の子が多い。謹慎中に変わってゆく姿が見られなくなったのが悲しい。



赤井川村：ひるねの里
関根光一・節子さん
館歴：5年

子ども達を預かって嬉しかった事

心を開いて接してくれる子どもと出える時と卒業名簿に名前が載ること。

最近大変だと思うこと

私たちには理解できない感覚と行動をとる子どもが増え、どのように対処しているのか悩んでいる。

ファインダーを通して

市川写真場 市川 靖雄



私が北星余市の写真を担当して、早二十数年になります。

四月の入学式の後すぐにクラス写真そして身分証明書の個人写真と続きます。毎年のことですが、一人一人の表情は笑顔とはほど遠いものです。十五〜十六歳で親元を離れ、遠い北海道での生活が始まるわけですから、不安と緊張は顔からあふれ出ています。それが一年生研修会、強歩遠足、球技大会、北星祭と行事を迎えるたびに表情が変わってきます。学校生活・余市での生活にもなれて、顔には余裕の表情が出てきますし、私にも声をかけてくれるようになります。これは生徒さんの余裕からうまれる変化です。とてもうれしいことです。

九月になると卒業アルバムの撮影に入ります。クラス写真・部活の写真・個人写真には気を遣います。特に個人写真は大切です。最高の笑顔・最高のパフォーマンスをねらいます。生徒さんもこれに応えてくれます。カメラを持つ私には、緊張しますがとても楽しい時間で、大切な一コマ（宝物）にしてもらえたら、もう言うことなしです。

極めつけは卒業式。卒業証書を手にした後の卒業生のパフォーマンス、気取りのない「父さん母さん、ありがとう！」の本音のひとことは、式場全員の心に染み渡ります。感動的なシーンです。これからは毎年毎年、最高の笑顔を写していきたいと思っています。

快挙!! 金メダル

今年の広州アジア大会セーリング競技で、本校の31期生吉藤博章さんが見事金メダルを獲得しました。

吉藤さんは埼玉県出身。在学中ヨット部に所属し、その後東海大学・海洋学部に進み、現在は和歌山のチーム「シエスタ」に所属し腕を磨いています。

吉藤さん、おめでとうございます!!



北海道新聞
2010年(平成22年)
11月21日(日曜日)
朝刊

時は確実に流れている。時を止めることが出来ればこんな良いことはないと思う。やり直したいことが沢山ある。もちろん出来ないことは充分承知だ。やりたいことがある。でもやるのが怖くて、なんとなく諦めてしまっ

時は確実に流れている

同窓会会長 松浦 一法 (12期)

ている。シリパの星が十年を迎えた。なんとなくではない。恐れず、諦めず、時の流れに乗った証だ。七〇〇名を超えた同窓会が今やらない事。シリパの星を発行し続けること。学校と共に！



同窓会員 奨学金について

今年度は卒業生のお子さん四名が奨学金を受けました。

- 四四期.. 神野ありさん
- (二八期.. 旧姓 徳永かおりさんの娘)
- 四五期.. 内田ひとみさん
- (二三期.. 内田 真一さんの娘)
- 四五期.. 山下 香織さん
- (二九期.. 旧姓 浅田 広美さんの娘)
- 四六期.. 金沢 友也くん
- (二六期.. 旧姓 藤田 智美さんの息子)



編集後記

10号を記念して表紙を飾らせていただくことになったものの、原稿がいつまでたっても書けずようやく形になったのは何と12月中旬でした。彼此30年程前の自分を思い出す作業でしたが、一つきっかけが出来ると大小の思い出が次々と頭の中に溢れ出し、久しぶりに脳が活性化された感じです。

人とつながる全てのきっかけは「出会い」「巡り

会い」だと思います。その「つながる」系の先にはたくさんの「想い」があります。北星余市の糸がいつまでもつながっていることを心から願って止みません。

ところで...私が北星余市に入るきっかけの一つになった「片想いの彼の兄」とは、実は現同窓会会長です。まさかこんな形で「お兄さんの方」と縁があるとは、当時は思いもしませんでした(笑)。(え)

計報

お悔み申し上げます。

- 九期 宇賀神香美(旧姓..猪俣)
- 二五期 黒田 飛鳥(旧姓..三木)
- 一二期 高橋 一義
- 二九期 国吉 英俊
- 一八期 神野かおり(旧姓..徳永)
- 七期 平澤 富彦

同窓会把握分

Shiripaの星

Vol.10
2010年12月28日発行

【発行】北星学園余市高等学校同窓会「シリパの星」編集委員会
〒046-0003 余市郡余市町黒川町 96 番地
TEL(0135)23-2165 FAX(0135)22-6097
URL <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>

顧問 塚原 治
編集長 松村 悦子(15期)
副編集長 松浦 一法(12期)
編集委員 安藤 栄子(1期)
本間美智子(5期)
馬場 希(12期)
平野満寿美(14期)